

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari  
visitor center

Vol.80  
2018.9



## 「いつも一人でアキアカネ」


amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

### 腹部が赤くなった“アキアカネ”

気力、体力が一気に吸い取られそうな程に長く暑い夏がようやく過ぎ、朝晩の涼しさが心地よく感じられたある日、葉の上に佇むアキアカネに出会いました。それまで見かけていた大群からは一転して数がかくんと減り、気温が低いためか動きは少し緩慢で写真を撮るには好条件。初夏の頃はまだ未成熟ということもあり腹部は淡い橙色でしたが、今は“アキアカネ”の名前に相応しく真っ赤です。俳人の種田山頭火は『いつも一人で赤とんぼ』と詠みましたが、夏から秋へと季節が移り変わるこの時期の情景がそのままに表現されています。このアキアカネも腕組みをしつつ「そろそろ里へ戻ろうか…」などと思索しているようにも見えてきます。夏は暑さを避けて山で過ごし、体が成熟した秋には里へ戻り次の世代を残す…。 “赤とんぼ”を見るとどこか懐かしさを感じるのは、アキアカネの生活サイクルがかつての私達の暮らしにより身近だったからなのかもしれません。

### “What is Akiakane?” 『日本固有種の赤トンボ』

トンボ科  
全長：32～46mm  
分布：北海道～九州〔小笠原諸島除く〕

童謡の「赤とんぼ」で有名。  
赤とんぼの別名は赤卒（せきそつ）。  
アカネ属の学名は「石と仲良し」という意味で晩秋の頃になると石垣などで日向ぼっこすることも。翅の強度はレジリンというゴムのようなタンパク質により素早く動かすのに役立つ。  
  
(石垣のアキアカネ)  
（参考図書：『赤トンボのすべて』他）

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori





# 網張から見える 山ノート

13ページ目 からすどまりやま 烏泊山

からすどまりやま  
烏泊山

標高：388.7m

位置（網張VCから）：南東

登山適期：通年

特色：はちまんてやま八幡館山（245m）の北西に位置し、送電線の巡視路沿いに登山は可能（地図とコンパスは必須）。民有地を含むのでマナーに注意。

ほとんどの方はこのユニークな山名もご存知ないかもしれません。場所は滝沢市篠木砥石沢、岩手看護短大の北側にあります。今はカラスがねぐらに使っている様子うかがえず、存在感はやや薄め。ネット情報を頼りに、行きは八幡館山経由、帰りは篠木坂峠の西側に下りる計画を立てました。八幡館山は登山口こそ目立たないもののしっかりと整備され、合目を示す標識にはなぜか十二支のオブジェがあしらわれていました。八幡館山山頂から烏泊山へは登山道がないので代わりに電力巡視路を進みます。スギ林に囲まれ深山に迷い込んだような趣の中、所々に立つ送電線の標識と地図をにらめっこしながら登りました。多少迷うも、あっけなく山頂へ。展望は…葉が落ちたら楽しめる？下山時はタヌキの“ためフン”からマメ科の植物が発芽する様子や、沢沿いに繁茂するゼニゴケの仲間などを横目にし、みずみずしい山の一面を感じる事ができました。

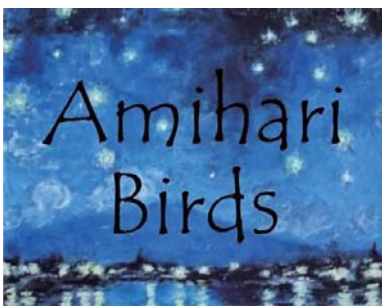


烏泊山の南東にある八幡館山には中世から戦国にかけて築かれた城跡がある。山頂からは大釜地域や秋田街道、雫石川や盛岡方面まで見渡す事ができる要衝の砦だった。平安時代にこの地方は族長“大武丸”が治めていたが、朝廷側の坂上田村麻呂に侵攻され追われた。周辺の“鬼越池”“鬼古里山”といった地名は、蝦夷征討を鬼退治として捉えた名残であり、時が経てなおもの悲しい。

賢治童話の舞台？



宮沢賢治が生前に出版した唯一の童話集『注文の多い料理店』にも収録されている『烏の北斗七星』。賢治の作品には珍しく戦争を題材にした作品で、山鳥と一戦交えることとなった烏の大尉の葛藤がつつられている。烏の集団を戦艦に見立てているのが賢治流で、独自のユーモアもみられる。



## ホシガラス

科名：カラス科  
全長：約34.5cm  
生態：留鳥または漂鳥  
分布：北海道、本州、四国

鳴き声

ガーッガーッ

アミハリ・バーズ Vol. 2 3



ホシガラスに出会いたかったら、岩手山の鬼ヶ城周辺がお勧めです。正直、姿は中々見つけれないかもしれませんが、特徴的な枯れた声をわりと耳にする事ができます。

ホシガラスの分布域は広く、北ヨーロッパからシベリア、東アジアにかけてです。生息地は標高が高いエリアに限られ、主に1,300m前後から亜高山帯（1,700～2,500m）にかけての針葉樹林周辺をすみかにしています。

カラスの仲間だけに雑食で昆虫や鳥の卵や雛など様々食べますが、主食はなんといってもハイマツの実（松ぼっくり）です。貯食もするけど、取り忘れた実からマツが芽を出し増える事もあります。ホシガラスは種子の「貯食型散布」を知ってか知らでか行方事で、森を育む事に貢献しているのです。



# 喜作先生の自然スケッチ “イタドリ（痛み取り） タデ科 について思うこと”

イタドリ（葉の根元＝葉脚〈ヨキヤク〉が切形〈セツイ〉）とオオイタドリ（葉脚が心形〈シンケイ〉）は、雌雄異株（シウイシュ）＝♀♂異株でイチョウのように♀♂が別株である。♀（双）の花は子房が発達して雄蕊（オウビ）は花弁に隠れている。♂（叔）の花は雄蕊（オウビ）が花弁の外に突き出ているのが顔を近づけて見ると分かる。滝沢市では9月になると♀株は枝にソバ状の種子が入っている包を残すが、♂株は茎に触ると花が散るか、既に全ての花を落としたりしている。イタドリ、オオイタドリは湿った地味の良い箇所に生育しており、♀は♀だけの、♂は♂だけの集団で生育している。それを見ると繁殖は種子よりも根茎で増えているものと思われる。この点はフキノトウやヤマブドウに似ている。

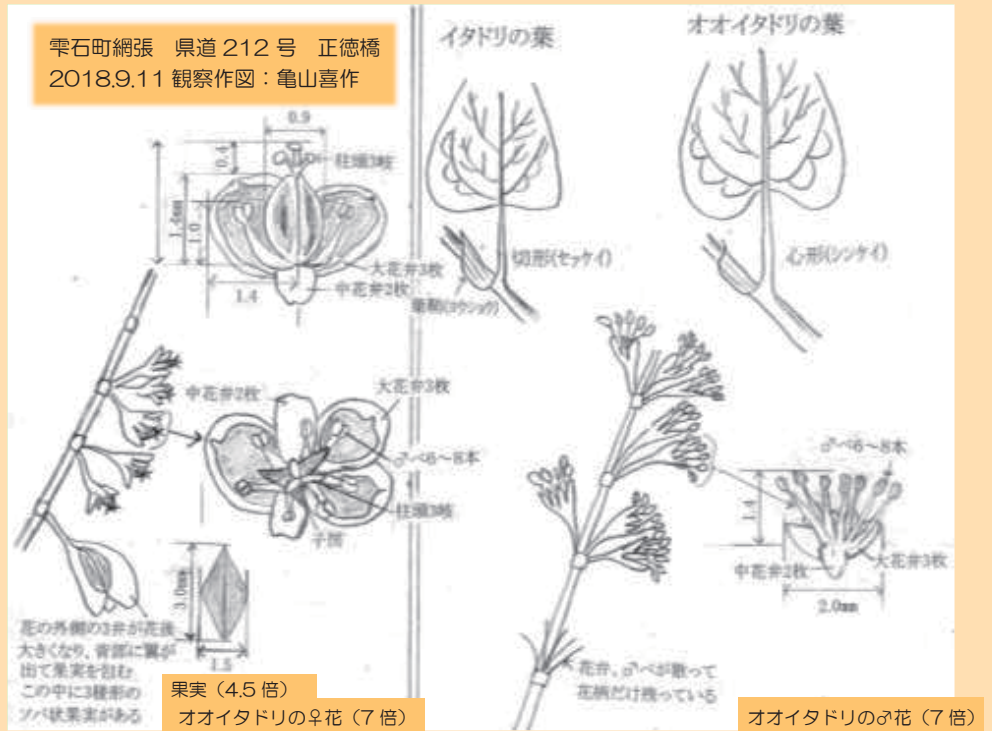
9月11日の観察地は柳沢神社から馬返し登山口までと網張ビジターセンター近くの正徳橋付近だったが、そこで見られたのはオオイタドリだけだった。

8月30日の秋田県抱返り溪谷ではイタドリだけだった。

このことは両者の分布が地域ごとにまとまっている可能性を示唆しておりいくつか調査したいものだ。

秋田県鷹巣地方では、イタドリのことを「さひどり」と言う。「さひ」とは田の代掻き（ソバ）の際に馬の顔先に結んで馬をリードした棒のことである。これはイタドリを誇張したものと思われる。

イタドリ、オオイタドリの出芽した約20cmの茎を採取し、これを湯がいた後に塩漬けて正月の煮しめ料理に使ったが、フキの方が美味かった記憶がある。また小学生の頃、ポケットに塩を忍ばせ、芽出した直後のイタドリをその塩につけて学校の行き帰りに食べたが、イタドリの酸味とマッチして美味しいものだった。（亀山記）



## ◆ 大学生たちから見た網張ビジターセンターは？ ◆

### 岩手大学大学院総合科学研究科(修士課程)の研修発表

7月29日 地域創生専攻の大学院生7名（指導 比屋根教授）が網張を訪れ、館内と散策路の調査及び利用者のインタビューを行い「ビジターセンターと網張の森の活用策」について各自が提案発表を行いました。その内容とは・・・

「親子連れの散策者にカメラを貸し出し網張の森チェックマップを作ってもらおう」「モモンガの巣箱を設置しその観察イベントを行う」「季節毎の自然情報を紹介し、また来たくなるような仕掛けづくり」「ビジターセンター内で網張の森の生き物に関する展示説明を充実させる」「外国人の知的好奇心を満たす詳細な網張の自然ガイドブック（多言語・有料）発行」「網張の自然環境を生かしたボードウォッチング強化」「プログラムに火山や温泉、酸性土壌に関する内容を盛り込む」等の具体的な提案に私たちスタッフも大いに刺激を受けました。



### 関西学院大学総合政策学科の網張実習

8月17日から一週間、2名の4回生がビジターセンターに泊まり込んで、国立公園の保護と利用の現場を体験しました。小学校以来という自然物を使ったクラフトでは悪戦苦闘、ネイチャーゲームでは童心に戻ってはしゃぎ、毎朝の早朝散歩ガイドは各地から来たお客さんと話が弾み、国立公園調査では天気に恵まれ絶景を堪能、環境省アクティブレンジャーの地道な調査に同行し、外来のオオハンゴンソウ駆除では地元のボランティアと一緒に汗を流して



あっという間に一週間が過ぎました。

実習を通じてビジターセンターと休暇村とがもっと連携を強める事や公園を守るボランティアさんの高齢化対策を考える必要性を感じたそうです。



# 近頃のビジターセンターの活動

国立公園で楽しむ親子の自然体験



盛岡市子ども科学館とのコラボ

**ナイトハイクと  
星空観察**  
7月21日

夜の高原が金星、木星、火星と月に照らされて明るくなった。



日本ボーイスカウト岩手連盟  
盛岡10団とのコラボ

**国立公園  
カーボンオフセット  
キャンペーン**  
7月21日

盛岡のボーイスカウトと一緒に地球温暖化防止をアピール。



コウモリの保護を考える会とのコラボ

**夜のいきもの  
観察会**  
7月28日

光に集まる虫を見た。コウモリの出す超音波を感知した。



**雫石町福祉作業所  
「かし和の郷」と  
田原農園の森林浴**  
8月29日

屋外に出るチャンスの少ない利用者さんと一緒に森の自然を満喫。



**炭火でお米を  
炊いてみよう**  
9月9日

炭と七輪を使ってお米を炊いた。その美味しかったこと。



盛岡森林管理署とのコラボ

**滝沢市立一本木  
小学校1~2年生  
森林学習**  
9月5日

ネイチャーゲームを楽しみながら森を守る大切さを学んだ。

写真提供：岩手山地区パークボランティア・コウモリの保護を考える会・かし和の郷

参加者募集中!

ビジターセンターの自然ふれあい行事は初めての方でも気軽に参加できます♪  
詳しくは網張ビジターセンターまでお問い合わせください!



**10月21日(日)「秋の網張高原ハイキングでリラックス」**

定員 20名 大人500円 小学生300円 9:30~12:30 網張ビジターセンター集合

**11月11日(日)「気軽にできる布絵作り」** 講師 藤村 節子氏(布絵愛好家)

定員 10名 大人500円 小学生300円 10:00~14:00 網張ビジターセンター集合

現在開催中の 企画展より

「暁天」 撮影：工藤紀恵



網張ビジターセンター展示コーナーにて

今、皆様が一番見ていただきたい東北の自然の—コマ

## — 環境省レンジャー写真展 —

◇◆ 9月1日から9月30日までの舞台 十和田八幡平国立公園・三陸復興国立公園・世界自然遺産白神山地

◇◆ 10月1日から10月31日までの舞台 磐梯朝日国立公園・国指定鳥獣保護区(森吉山 最上川河口 伊豆沼等)

### モモンガのつぶやき

先日の炭火行事の際に、ミニ炭焼き体験として松ぼっくり・<sup>いばぐり</sup>稗炭を作ってみました。参加者の皆さんの炭は成功しましたが、スタッフ分は焼けたクリが破裂して失敗…。それを見て、民話の「さるかに合戦」を思い出しました。切込みを入れないで栗を焼くとはげろ…。先人達は日々の暮らしの中で身をもって様々なことを経験していたんだなあ。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 7月 2,002人 ◆ 8月 2,726人

朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 7月 17.5℃ ◆ 8月 16.8℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時

冬期(11月から3月末まで) 毎週火曜日休館